

「三の丸からプロジェクト」は、会津の武家文化、若松城下の商工文化、雪国のくらしものづくり文化という会津ならではの3つの文化を、若松城の三の丸跡に建つ福島県立博物館から、会津地域で楽しんでいただくためのプロジェクトです。福島県立博物館は、3つの文化の奥深さ、豊かさを展示や体験などでお伝えする文化のゲートウェイ(入り口)として、また3つの文化を体感できるエリアにみなさんを誘うナビゲーターとして、今年度から数年間かけてハードもソフトもバージョンアップしていきます。

「会津のSAMURAI文化」

若松城の本丸(若松城天守閣郷土博物館・茶室麟閣・本丸御殿跡など)、二の丸、三の丸(福島県立博物館)をはじめ、会津若松市内には武家文化ゆかりの史跡などが多数残っています。歴代の会津藩主や藩士の歴史文化を資料や史跡、武家文化体験などをご紹介します。



「若松城下の商工文化」

若松城下では、江戸時代からさまざまな職人たちがものづくりに携わり、それらの製品を扱う店を含め多数の商家が店を構えていました。江戸時代の若松城下を商工文化の目線で捉え、戊辰戦争からの復興期を支えた商家の力、現代に繋がる会津のものづくりの技と美に注目します。



「雪国のくらしものづくり文化」

奥会津には、雪国ならではの知恵のつまったくらしや、雪と山の恵みを活かしたものづくり文化が現在も息づいています。若松城下のものづくりの材料の供給地でもあり、関東・北陸との結節点でもあった奥会津。雪国会津の文化を支えた奥会津の魅力を「くらし」と「ものづくり」をキーワードに探ります。



【文化観光拠点施設(設置者)】

福島県立博物館(福島県)

【文化観光推進事業者】

会津若松市  
一般財団法人会津若松観光ビューロー(地域DMO)  
公益財団法人福島県観光物産交流協会(地域連携DMO)  
会津若松商工会議所  
只見川電源流域振興協議会

三の丸からプロジェクトのテーマ〈つなぐ〉

3つの文化を、みなさんと会津を、会津の歴史と今と未来をつなぐプロジェクトです。

三の丸からプロジェクト 15の事業で構成されています

「三の丸からプロジェクト」は、令和2年5月に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき国により認定された拠点計画の一つ「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を実現するプロジェクトです。「三の丸からプロジェクト」は、拠点計画を実現するために、文化庁から「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業」として採択され実施しています。以下の15の事業で構成され、共同申請者5団体のみなさんと実施しています。

3つの文化エリアの周遊につながるストーリー作成と専門的な資料調査、撮影

【全事業の基盤】 ● 3エリア周遊促進のための文化資源磨き上げ事業

【文化観光拠点としての福島県立博物館 整備事業】

- 3エリア周遊促進のための展示強化事業  
展示効果を高める
- 3エリア周遊促進のための展示強化事業—情報通信技術活用展示  
映像作品制作
- 福島県立博物館多言語化事業  
館内の掲示、解説などの英語、中国語(簡体字/繁体字)による多言語化
- 来館者利便性向上事業—情報通信環境整備  
館内のWi-Fi整備、キャッシュレス化
- 来館者利便性向上事業—環境整備  
障がいのある方の館内利用環境を整備
- 3エリア周遊につながるゲートウェイ機能のための展示室・無料空間整備  
3つの文化のゲートウェイ機能強化

【3周遊を促進するソフト事業】

- 3エリア周遊促進のための体験型プログラム提供事業  
武家文化体験・若松城下と雪国のものづくり体験
- 若松城下まちなか連携事業  
県博と若松城下の歴史的建造物との連携事業
- 3エリア周遊のためのツアー造成事業  
三の丸からプロジェクトを満喫できるツアーを後押し
- 「若松城下の商工文化エリア」  
「雪国のくらしものづくり文化エリア」周遊促進事業  
雪国ものづくりレストラン  
食を通じたものづくりの体験と楽しみ
- 「若松城下の商工文化エリア」  
「雪国のくらしものづくり文化エリア」周遊促進事業  
雪国ものづくりマルシェ  
食とものづくりを味わう楽しみ・体験する楽しみ

【3周遊を促進する整備事業】

- 「会津のSAMURAI文化エリア」周遊のためのサイン強化事業  
江戸時代と現在の若松城、比較と発見
- 【3周遊の情報発信する事業】  
● 会津の文化資源国内海外プロモーション事業  
国内外への発信プランを検討
- 3エリア周遊促進情報発信事業  
周遊情報インフラ整備と広報

観覧料

- 常設展観覧料 一般・大学生280円(20名様以上の団体は220円)
- 企画展観覧料 企画展により異なります。詳しくは各展のチラシやHPをご覧ください。
- \* 企画展チケットで常設展もご覧いただけます(企画展開催中有効)。
- \* 高校生以下は常設展・企画展ともに無料です(ただし高校生は一部企画展が有料)。
- 年間パスポート 2,000円 購入日から一年間、当館主催の企画展や常設展が何度でもご覧いただけます。



- JR会津若松駅から約3km
- ・タクシーで約10分
- ・まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)
- ・まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)
- 車椅子使用者用駐車場
- ・博物館西側「鶴ヶ城三の丸口」バス停そば:2台
- ・一般駐車場内博物館入り口側:3台
- ※ご不明の点はお問合せください。



福島県立博物館 Fukushima Museum

開館時間9:30~17:00(最終入館は16:30まで)  
お問い合わせ TEL0242-28-6000 FAX0242-28-5986 〒965-0807 会津若松市城東町1-25  
HP <https://general-museum.fcs.ed.jp> e-mail [general-museum@fcs.ed.jp](mailto:general-museum@fcs.ed.jp)

<編集後記>

令和2年度下半期からはじまった「三の丸からプロジェクト」。令和3年度に本格スタートとなり、共同申請者の観光団体のみなさんや地域のみなさん、講師のみなさんとの協働により実施しています。会津の豊かで多様な文化のリアルな体験を、本事業を通してみなさんと楽しんでいきたいと思っています。令和4年度の詳細は随時HPなどでお知らせしていきます。ぜひお楽しみに。(M)



なじよな2022特別号 2022年3月25日発行 発行/福島県立博物館



なじよな2022特別号  
三の丸からプロジェクト特集



今号では令和3年度に行った三の丸からプロジェクトを、一挙に紹介！  
令和4年度も盛りだくさんの内容を予定しています。  
三の丸からプロジェクトの最新情報は福島県立博物館HPや  
最新の「おしのび」をご覧ください。

●スツッキー&マツキー けんぱくに見れる器の忍びものシリフタバスエスリユウ  
●なんばん先生 はんか通くの国からやっ来た会津大好き南蛮人  
●おしのび殿 おしのびで若松城下に現れては町の暮らしを楽しまれるお殿様

# 三の丸からプロジェクト

## 若松城下まちなか連携事業

会津若松市街地(まちなか)に残る歴史的建造物を会場に、福島県立博物館で開催している会津をテーマにした展示と同テーマの展示やイベントを行います。  
令和3年度は、若松城天守閣・福西本店・竹藤・末廣酒造嘉永蔵を会場に「会津の絵画」をテーマに展示を開催。また、夏には企画展「あわひのクニ・あやかしクニ」にあわせ会津の不思議な話・怖い話も扱ったイベント「宵まち会津」を行いました。令和4年度も連携展示・連携イベントを開催予定です。



- 8/14 末廣酒造「山田広野の納涼蔵出し大活弁」  
講師：活弁士・映画監督 山田広野
- 8/28 竹藤「山田広野の納涼あやかし大活弁」  
講師：活弁士・映画監督 山田広野
- 9/11 福西本店「会津怪談録・令和ノ愛」  
講師：怪談作家 黒木あるじ
- 9/18 会津塗伝承館鈴善漆器店  
「語りで繋ぐみちの妖怪」  
講師：妖怪朗読家 ゆうか

若松城下に唯一残る江戸時代の商家建築が「竹藤」なのじゃ。ここで会津の絵師の絵を眺めるのはなかなか良い機会があった。



「末廣酒造」は隔年からこの場所に酒蔵を構えておる。戊辰戦争、明治の大火と大変なこともあったが、明治・大正に建てられた酒蔵は今も現役じゃ。通常非公開の漆器や轆轤を展示してもらったぞ。



鈴善漆器店は漆器の大店らしい風格がある建物だの〜。豪華な調度品に囲まれて妖怪朗読家の話を聞いたぞ。



象高・福西家「江戸時代から昭和にかけて通った8つの建物」は、どれも見事なものじゃ。母屋の2階の大広間で特別に夜に開いた怪談作家の話は怖かったの〜。

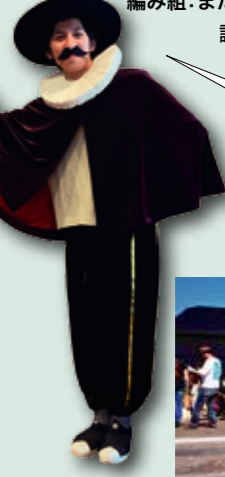


## 「若松城下の商工文化エリア(会津若松市街地)」「雪国のくらしとものづくり文化エリア(奥会津)」周遊促進事業 雪国ものづくりマルシェ

雪国会津のさまざまなこだわりのものづくりを、作って、買って楽しめるイベントです。初めての開催となった令和3年10月10日(日)、秋晴れのもと博物館前庭・体験学習室がたくさんの人でにぎわいました。さまざまなワークショップコーナーと出店により、会津漆器や会津木綿、奥会津の編み組やむしなど、会津の豊かなものづくり文化と、会津の水と土が育んだ食文化を、見て触れて体験できるマルシェとなりました。

出店(手仕事)：ほくるし堂(会津若松市)、ふれるうるし(喜多方市)、株式会社はらっぱ(会津若松市)、TESOROaccessory(会津美里町)、またたび工房・産里(金山町)、本田屋本店(会津若松市)、NODATE(会津若松市)、一十八日(南会津町)ほか  
出店(食)：本田屋本店(会津若松市)、Dana Village(西会津町)、ばんだいジオファーマーズ(磐梯町)、松本養蜂総本場(会津若松市)、café & activity nowhere(猪苗代町)、ふじや×喜多方(喜多方市)、スパイス処SAVAI(会津若松市)、會津酒坊マルミ屋(会津若松市)

- 制作体験 会津漆器：①豆皿絵付体験  
講師：二瓶由布子さん(ほくるし堂 漆作家)  
②お箸ぎざし体験  
講師：若橋美琴さん(ふれるうるし 漆作家)
- 会津木綿：会津木綿でマグネットづくり  
講師：井上真理江さん(株式会社はらっぱ)
- 会津本郷焼：じゃらんかけレジンチャームづくり  
講師：渡部未来さん(TESORO accessory)
- 編み組：またたびストラップづくり  
講師：市川里美さん(またたび工房・産里(ゆとり))



「けんぱくの前庭にきわってましたね〜。小さい子もいっぱいいましたね〜。マルシェ、私の国の言葉では「メルカッド」と言いますね〜。ものづくりマルシェとは面白い試みです。



自分で好きなようにつくれるのはとても面白かったです。

食べるもの確かに会津のものづくりだね〜。どれもこだわりの逸品でした。

参加者の声

- 博物館の入り口でマルシェは意外！体験ブースや品そろえが豊富でよかったです。
- 会津の良い物を知ることができました。



## 3エリア周遊促進のための体験型プログラム提供事業

会津の武家文化、若松城下と雪国のものづくりを実際にやってみて・見て楽しむ体験型プログラム。令和3年度は「会津を知る 会津に触れる」と銘打ち6回行いました。武家文化を体験する実演「演武！ AIZU 居合道」では、日本刀を用いた「抜き付けから納刀」までのさまざまな技法や諸作法をご覧いただきました。若松城下のものづくり体験は会津木綿をピックアップ、「織元にきく！ 会津木綿のお話」では、現在会津に残る3織元さんからかつての会津木綿の編の使われ方や地域的な好みなどを伺い、「会津木綿のハギしで「はたき」をつくらう！」では、木綿の柄を選び、作り、使う楽しさを味わいました。奥会津のものづくり体験では、植物素材のマタタビで、カゴやザルの基本的な編み方の一つである「四つ目編み」でできたランチョンマットや花結びのストラップを作りました。当館での体験が、会津に伝わるさまざまな文化の魅力に気づききっかけとなりますよう、令和4年度もプログラムを充実させてお待ちしております。



- 12/4 居合①「実演 演武！ AIZU居合道」  
講師：解説 園分修一さん(夢想神伝流、福島県剣道連盟会津居合道部会長)  
演武 猪俣伊祐さん(夢想神伝流、福島県剣道連盟会津居合道部事務局長)
- 12/18 居合②「実演 演武！ AIZU居合道」  
講師：解説 園分修一さん  
演武 猪俣伊祐さん
- 11/3 会津木綿①「織元にきく！ 会津木綿のお話 一編と現在、そしてこれから」  
講師：山田悦史さん(山田木綿織元)  
原山修一さん(株式会社はらっぱ)  
谷津拓郎さん・千葉崇さん(株式会社IE(+))
- 11/6 会津木綿②「ワークショップ 会津木綿のハギしで「はたき」をつくらう！」  
講師：株式会社はらっぱの皆さん
- 11/20 編み組①「ワークショップ またたびランチョンマットをつくらう」  
講師：市川里美さん(またたび工房・産里(ゆとり))
- 12/5 編み組②「ワークショップ またたびストラップをつくらう」  
講師：市川里美さん(またたび工房・産里(ゆとり))

① 居合の体験型プログラム 盛り上がりだったね〜。会場には会津藩校日新館で行われていた居合の授業見学を描いた絵のハパーもあったよ。

② 会津木綿のワークショップ 楽しそうだったね〜。

③ マタタビのランチョンマット、マツキー作れた？

④ 優しく教えてもらえたからできたよ。使い込むと色が変わってくるんだって。楽しめたね。

参加者の声

- 会津伝統の会津木綿を利用してとても素晴らしい。宝物、世界にたった一つのものになりました。
- なんとなく懐かし、新しい出会いができた講座でした。

## 3エリア周遊につながるゲートウェイ機能のための展示室・無料空間整備 雪国ものづくりベビーケアルーム

奥会津のものづくり要素を取り入れてベビーケアルームを制作しました。雪国のものづくりが今も色濃く息づく奥会津地域の自然や暮らしのエッセンスやものづくりの素材の質感を楽しめる空間になりました。



外観：せいろう(井籠)倉  
木仕事で留守にする際に家財を守るために使ったせいろう倉をモデルにし、会津産の杉、桐、栗等の木材でつくりました。軒下にヒロロ、カラムシ等のものづくりの素材を展示し天然素材の手触りを感じていただけます。



オーナメント：ブドウツル、マタタビなど  
奥会津のものづくりを代表する編み組の素材(ブドウツル、マタタビ等)で花形など様々な飾り(オーナメント)をつくり、カラムシの糸で吊ってベッドメリーのように仕上げました。



照明：カラムシ、モワダ、栃の実  
カラムシの糸でできた照明シェードはカラムシの光る珠のようです。照明の引き紐は編み組細工で用いるモワダで製作。紐の先には奥会津で食材にしてきた栃の実がついています。



テーブル：栃の木  
テーブルの天板は、会津塗で椀などの丸い形の器の材料として多用してきた栃材を用いています。木目の美しさをお楽しみいただけます。



ソファ：会津木綿  
ソファには会津木綿を使用。かつて木綿織りが盛んだった会津坂下町青木地区の「青木木綿」をベースに新たに作られた綿を選びました。



サイン：会津桐  
ベビーケアルームのサインは、会津産の桐材に焼を入れて文字やピクトグラムで表現しました。



ゲンベイ：藁  
ベビーケアルームの入口に下がる「ゲンベイ」は、藁でつくった雪道用のはきものです。藁細工づくりも雪国の冬のものづくりの一つ。ベビーケアルームを利用するお子さんたちの成長を願い、子ども用のゲンベイを吊り下げました。



## エリア周遊につながるゲートウェイ機能のための展示室・無料空間整備 常設展示室部門展示「歴史・美術」整備



本事業では、3エリア周遊に関わる美術工芸品を効果的に展示し、その魅力を来館者のみなさんにお伝えできるように、部門展示「歴史・美術」の改修・展示台・展示具の整備、解説パネルの製作を行いました。展示室の改修では、これまで白色だった展示ケースの壁クロスを黒色に張り替えました。高級感のある空間へと生まれ変わっていきます。また、新たな照明器具を取り付けたことで、展示品の形態や素材にあわせてきめ細やかなライティングが可能となりました。また、博物館の展示資料と会津の文化との繋がりに関してわかりやすく紹介する解説パネルで、会津の文化の素晴らしさをお伝えしていきます。

## 「若松城下の商工文化エリア」「雪国のくらしとものづくり文化エリア」周遊促進事業 雪国ものづくりレストラン

福島県立博物館のレストランは「食」を通してものづくりを体感していただく空間を目指していきます。例えば、器。手にし、口で触れる食器は、目で見て、手で触れて、色や形の特徴、質感や重さを感じていただきながら、ものづくりの技と美を感じていただける大事な要素です。そこで会津のものづくりの歴史や技法に触れて学べるオリジナルの食器を制作しています。また、レストラン自体を、会津塗と会津木綿を体験できる空間に整備しました。レストラン奥には壁面と同じ仕様で新たに物販コーナーも設けました。お使いいただいた食器や、食やものづくりに関連する商品を販売していく予定です。令和3年度から令和4年度にかけて、さらに整備を進め、会津のものづくりを楽しめる空間として生まれ変わります。ぜひお楽しみになさってください。



壁面・棚板：拭漆(透・黒・朱・黄・緑)と鉄錆  
壁面の黒一筋は黒色の拭き漆のラインです。展示などで活用する棚板の側面には、会津塗で江戸時代から多用してきた技法・漆絵で使われる朱・黄・緑に黒と透の5色の拭漆と、同じく江戸時代からつくられている鉄錆塗の技法を施しました。



テーブル天板：拭漆(透・黒)と栃材  
テーブルの天板には、拭漆を施しました。中央のテーブルの天板は透の拭漆。窓側のテーブルの天板は黒の拭漆です。窓側のテーブルの天板は、会津塗の椀などの丸い器で使ってきた桂を用いました。



椅子：会津木綿  
椅子の座面に用いた会津木綿は、伝統的な藍系の縞模様のひとつ「黒かつお綿」と近年あらたにつくられた無地系の色のひとつ「モスグリーン」を組み合わせて張り合わせました。



その他、「会津塗の製作工程がわかる板」「会津塗の技法がわかる箸」「会津本郷焼の陶器の釉薬の多様性がわかる皿」や「会津本郷焼の磁器の素地と釉薬がわかる皿」、「奥会津のカラムシの糸の太さの違いや染の技法がわかるランチョンマット」、「奥会津の桐工芸の技法がわかるトレー」など、会津のものづくりがいかに多様で、魅力的かを伝える食器を揃えます。

## その他... 来館者利便性向上事業—環境整備 観覧支援システム

どなたでも楽しめる文化施設となるために視覚障がいのある方への「分かる」観覧支援システムを制作しました。音声案内に従い箱の中に入っている資料に触れながら楽しく学べます。モニターには、ヒントとなる画像とテロップを流し、聴覚障がいがある方にもお使いいただけます。どうぞご利用ください。

## 福島県立博物館多言語化事業

外国語ユーザーの方にも安心してご来館いただける文化施設を目指し、これまでほぼ日本語のみだった館内の案内掲示類や展示解説を多言語化しました。観光庁の多言語化指針にのっとり、ネイティブの方にもわかりやすい英語や中国語(簡体字・繁体字)の表記になっています。

# マツキー&ズツキー、なんばん先生、おしのび殿のおススメ